

謹賀新年



発行所 〒985-8510 塩竈市一森山一番一号
 志波彦神社 社務所
 電話 〇二二-三六七-一六一(代)
 FAX 〇二二-三六五-五五三〇
<http://www.shiogamajinja.jp/>



新年を迎える準備が始まる師走上旬、神宮大麻の頒布が始まる。神社の授与所でも扱うが、塩竈市内の全ての家庭に届けることを目標に神職・養成所生徒総員で一軒一軒を訪ね歩く。玄関が開けば、ほとんど受けて頂ける。「苦勞さんね」・「一年あつと言う間だね」といった会話も毎年のこと。道端で呼び止められて、留守にしているからと受けられる方や、コンビニ店主に授与していると買い物客から求められることもある。軒先を借りての金銭授受には恐縮する。が、市内全域を隈なく歩きため同じ地区を二度訪ねることは出来ない。留守を理由に再訪を求めてくる電話に、神社に来て受けて戴くしかない」と伝えるのは心苦しい。学生時代、東京での大麻頒布は苦い思い出だ。百件以上歩いて、一体も頒布できず、押し売りだと怒鳴りつけられたこともあった。そんなことを思い返す度、塩竈の有難さを感じている。そして、街を歩くことによって身体で感じるものがある。港町特有の坂道や階段の多い地形に建つ家々を巡る中、ようやく上りついた一軒家が留守であった時の落胆。若い時はそれ以上の考えは浮かばなかったが、階段を辛く感じる年齢となつて毎日上り下りする家人の御苦勞を思い知るようになった。若い時でさえ危険に感じた急階段の先に老夫婦の住まいがある。おそろいで良い年をむかえられるよう神宮大麻をお届けしなければならぬ。神宮大麻全国頒布が明治五年に始められてから百五十周年。先人より守り伝えられてきた使命感を胸に、この聖なる事業に取り組んでいる。



年頭にあたり

志波彦神社 宮司 鍵 三夫

令和五年（皇紀二八六三年）新春を寿ぎ、御皇室の弥栄と御国の安泰を御祈念申し上げます。氏子崇敬者各位には旧年中、当社の神事・諸行事に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。コロナ禍において各祭典が規模を縮小して斎行されて

中、花祭・みなと祭には三年ぶりに市内の神輿渡御が行われました。多くの皆様のご心暖まる歓迎をうけ、御神輿をどけただけ心待ちにしていたかと思察するに余りあります。また、新嘗祭における初穂曳は、氏子青年会の皆様により、縮小しながらも実施いたしました。本年は大勢の皆様のご奉仕により奉曳車の「椀鳴り」

が市内に響きわたります事を願います。さて、社報「しおがまさま」は、昭和二十七年九月に発刊され、昨年七十年の節目となりました。発行のこの日に「氏子崇敬者なくして神社はあり得ない。今度この『お山だより』を刊行することにより、此かでも神社と氏子崇敬者とのつながりに資する所があ

れば望外の幸甚である」とあります。爾来神社の四季折々の祭典・行事等をお伝えしてきました。情報発信の形が多様化している現在、発刊のこのばにありますが、これからは氏子崇敬者とのつながりを「しおがまさま」が担うことを願ってやみません。昨年末よりコロナ感染者数が増加の一途をたどる中、神社では感染防止対策を講じ、皆様の御参拝をお待ち致しております。結びにあたり、皆様の弥益の御繁栄と御健勝を祈念し新春の辞といたします。



初春に寄せて

志波彦神社 鹽竈神社

総代・氏子崇敬会会長 桑原茂

輝かしい令和五年の新春を迎え、皇室の弥栄と国家の隆昌、志波彦神社・鹽竈神社様の繁栄を祈念し皆様方へ謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

平素より崇敬会の護持運営はもとより、諸政策の事業推進に格別のご理解、ご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

この三年間、新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延し、国民生活はもとより、社会活動等あらゆる分野に多大な影響を及ぼしていることはご承知の通りです。昨今はコロナに加えてロシアのウクライナ侵攻などの影響による原

材料価格の高騰、諸物価の上昇など、私たちの取り巻く環境は極めて厳しい状況が続いております。感染症拡大防止を最優先にワクチンの開発などに国を挙げて対策を講じています。今般終息の見通しが立っていないのが現状であります。

神社界に於いても例外ではなく、諸神事、会合等がほとんど中止、縮小の止むなきに至り、忍耐を要する年になりました。新型コロナウイルス感染症拡大と他国の争いが一日も早く終息し平和な日々が戻ることを願ってやみませ

ん。畏くも天皇皇后両陛下に於

かれましたは、「第三十七回国民文化祭および第二十二回全国障害者芸術・文化祭」にこの臨場併せて地方事情ご視察のため、十月二十二日から二十三日にかけて沖繩県に行幸啓されました。三年ぶりの御宿泊の国内行幸啓でございます。

日々ご公務に精励されておりますこと誠に慶賀に堪えない次第であります。

我が国の麗しい精神文化が継承されてきた意義を再認識し、一層皇室敬慕の念の涵養に努めなければならぬと存じます。昨年七月十八日縮小はいたしました。が三年振りに第七十

謹みて新年のご祝詞を申し上げます

令和五年 癸卯 元旦

志波彦神社 鹽竈神社

代表役員

宮司 鍵 三夫

責任役員

阿部勘九郎 佐浦 弘一 鈴木 雄一

渡會 邦彦 阿部 仁

野口 次郎

佐藤仁一郎 和田 忠

志賀 重信 鈴木 健史

水野 暢大 桑原 茂

津田 武彦 志賀 直哉

菅原 宏和 小泉 幸彌

勝又 雄司 下山 儀憲

土井 善久 阿部 善光

横田 繁夫 内形 繁夫

総代

桑原茂

鈴木健史

水野暢大

志賀重信

和田忠

佐藤仁一郎

阿部勘九郎

佐浦弘一

鈴木雄一

渡會邦彦

阿部仁

野口次郎



年頭のご挨拶

塩釜警察署 署長 内海 雅 晴

新年あけましておめでとう
ございます。皆様には輝かしい
新春を迎えられましたことを
衷心よりお慶び申し上げます。

また、旧年中は警察行政の
各般にわたり、深いご理解と
多大なご支援を賜り、厚く御
礼を申し上げます。

昨年、塩釜警察署の第九十
五代署長として着任し、着任
間もない三月二十九日に執り

行われた志波彦神社例祭で
は、清浄な神域で斎行される
神聖かつ荘厳な儀式に感銘を
受け、身の引き締まる思いで
参列しました。

また、鹽竈神社花まつり並
びに塩竈みなと祭では、神輿
が表坂下にお着きになったと
き、歓声をあげる観衆の姿、
市内巡行等で神輿にそとと手
を合わせる観衆の姿、神輿還
御のため最後の力を振り絞っ

ている氏子の皆様を静かに見
守る観衆の姿を目の当たりに
し、多くの人々から崇敬を受
けている目に見えない御姿の
ご加護を感じ、署員一同もこ
の警備活動に喜びと使命感を
持ち、事故防止対策に万全を
図らせていただきました。

さて、昨年の治安情勢につ
いては、犯罪の抑止等の警察
諸活動を推進した結果、治安
維持に関して一定の成果を上

げることができたと考えてお
りますが、一方で高齢者を
狙った特殊詐欺や子供・女性
に対する犯罪が発生するなど
予断を許さないところであり
ます。

塩釜警察署では、安全・安
心な地域社会の実現のため署
員一丸となって治安維持に取
り組んで参りますので、本年
も変わらぬご理解とご協力を
賜りますようお願い申し上げます。

結びに、「コロナ禍」が終
息し、これまで通り各種神事
が執り行われますことと、皆
様の益々のご健勝を祈念申し
上げ、年頭のご挨拶とさせて
いただきます。



年頭のご挨拶

東北歴史博物館 館長 阿子島 香

新年明けましておめでとう
ございます。皆様には、令和
五年の清々しい新春を迎えら
れたことと心からお慶び申し
上げます。

昨年は、鹽竈神社様には、
東北歴史博物館の秋季特別
展「みちのくのサムライたち
―東北武士の系譜―」の開催
にあたり、たいへんお世話に
なりました。同展「刀剣ワー

クシヨップ」でもご協力を賜
り、厚く御礼申し上げます。
鹽竈神社博物館に所蔵され
ます極めて貴重な文化財の
数々を、当館展示のためにご
出陳いただき、お蔭様で多く
の市民の皆様と大きな感動を
共にすることが出来ました。
仙台藩四代藩主、伊達綱村公
が鹽竈神社に奉納された「太
刀 銘 来国光」は鎌倉時代

後期の名刀であります。その
太刀に付属する外装「金梨地
菊・竹に雀紋時絵茶巻太刀拵
は江戸時代前期の豪華な優品
です。太刀、拵ともに、国の
重要文化財に指定されていま
す。鹽竈神社は「奥州一宮」
として、伊達政宗公以来、仙
台藩の崇敬を集めておりまし
たが、綱村公以後に歴代藩主
は太刀奉納を例とし、今回も

その中から三振りの太刀およ
び拵を出陳いただきました。
足利尊氏下文などの貴重な
中世古文書と合わせて、広く
刀剣ファンはじめ来館の皆様
にご鑑賞いただくことがで
き、「文武両道」のサムライ
たちの理解を深める展示とな
りました。令和二年春から続
くコロナ禍の一日も早い収束
を願いつつ、その中で博物館
が果たせる役割を改めて認識
し、地域文化の更なる発展を
祈念いたしまして、年頭のご
挨拶とさせていただきます。

氏子崇敬会
会長

副会長

桑原 茂
水野 暢大
佐藤 良明
小林 克己
菅原 宏和
引地 利男

祭典委員会
委員長

副委員長

内形 繁夫
齋藤 善彌
香取 嗣雄
志賀 重信
菅原 宏和
鈴木 金善

敬神婦人講
講長

副講長

宇仁 一美
佐々木 良子
今野 紀美子
千賀 寿子
戸羽 宏明
沼倉 安志
永沢 透
小林 史人
鈴木 整

氏子青年会
会長

副会長

節分祭年男女世話人会
会長
佐藤 武志
副会長
佐藤 一臣

御神田奉斎会
会長

阿部 仁

鹽竈神社博物館審議委員会
審議委員

濱田 直嗣
太田 與八郎

第七十五回 奉献乾海苔品評会

本年も当社を会場に「鹽竈神社奉献乾海苔品評会」が開催されます。

審査会は、一月六日(金)午前十時に社務所大講堂で実施します。十帖一束約三二〇g以上の乾海苔を一点として色・艶・手触りなど厳正な審査を経て、優賞・準優賞以下受賞者を決定します。

十一日(水)、午前十一時より関係者参列のもと奉献感謝祭が斎行されます。

当日は、出品された乾海苔を祭務所に展示します。宮城県のある日本有数の乾海苔を、豊かな香りとともに御覧下さい。



節分祭

恒例の「しおがまさまの豆撒き」節分祭。

本年は二月三日(金)、五日(日)両日共、午後三時より斎行します。

厄年を迎えられた年男・年女は勿論の事、年齢にかかわらず厄災消除・家内安全等祈願します。

会費は一万八千円(豆撒き参加)、一万二千円(郵送祈祷)それぞれ祈祷料・記念品・その他一切を含みます。

両日共に一三〇名の定員です。最寄りの世話人にお申込み下さい。

節分祭年男女世話人会

〈市外局番〇二二〉

・会長

佐藤 武志

南町 榎菅原園茶舗

(三六二) 〇〇二八

・副会長

佐藤 一臣

南町 漢方の塩竈芍薬堂

(三六二) 七八八〇

・郷家 照夫

南町 郷家第三歯科医院

(三六二) 四五七一

・松本 喜八郎

旭町 株松本左官工業

(三六二) 三二七五

・佐藤 仁一郎

南町 株こんきや

(三六七) 七七七七

・菅原 周二

桜ヶ丘 株白寿殿

(三六六) 四一四一

・桜井 ふみ子

清水沢

〇九〇(五八四三) 二七二三

・鈴木 孝彦

権現堂 (有)丸伸佐藤商店

〇九〇(二〇六九) 二〇七〇

・大友 義雄

桜ヶ丘 株白寿殿

(三六六) 四一四一

・大場 喜藏

南錦町 大場酒店

(三六七) 〇九〇六

・高瀬 聰

尾島町

(有)たかせさとし美容室

(三六六) 六四二〇

・古内 隆弘

港町 プリンス食品株

(三六五) 六一八一

・古川 浩司

貞山通 株カネヒロ

(三六六) 一一六一

新嘗祭斎行

十一月二十三日、一年の収穫を大神様に感謝する新嘗祭(産業振興大祭)が、斎行されました。

コロナ禍のため中止となっていた「初穂曳」が、規模を縮小し博物館前より志波彦神社大鳥居前まで実施されました。境内に三年ぶりに奉曳車の「碗鳴り」が響きわたりました。

新嘗祭斎行に際し、左記の方々から各種産物を御奉納頂きました。(品目別・順不同・敬称略)

新嘗祭奉献者御芳名

米

J A いしのまき・株白寿殿・鈴木那彦・大場一美

酒類

阿部勘酒造株・株佐浦・株やまや・和田電気工事株

鮮魚

みなと塩釜魚市場株・塩釜魚市場買受人協同組合・塩釜市魚市場問屋組

合・塩釜市水産振興協議会・ぜんぎよれん食品株・塩釜食品工場・株ワタベ魚類・株菊池商店・ヤツト八チ鈴木水産株・山田水産・第十八光優丸・第三千龍丸・第十一照丸・第三十七太幸丸・第十八誠漁丸・第三十五長福丸・寿利丸

練製品

塩釜魚市場水産加工業協同組合・株塩釜水産食品・株ヤマス蒲鉾店・直江商店・マルブン食品株・株ヤマカ勝又商店・株ヤマサ・株明豊・岸柳水産株・(有)八百照・海鮮せんべい塩釜株・株間宮商店・プリンス食品株・(有)増友商店・勝山水産株・水野水産株・(有)カネイ蒲鉾店・株阿部平蒲鉾店・株大膳・株松島蒲鉾本舗・三波食品

野菜・果物

株塩釜地方卸売市場・八百大分店・北浜フード・鈴木正勝・小野とみゑ

加工品

株阿部亀商店・株シーフー



菓子
 梅花堂・(有)土井精菓・(有)ヤマギシ洋菓子店・丹六園・(有)サントノーレ洋菓子店・(有)榮太楼

塩
 (株)東日本ソルト仙台営業所

その他食品
 (株)松田製粉・塩釜すし業組合・シヨップサトー・(株)アベチヨウ・大森商店(株)・理研食品(株)

鐺奉納奉告祭



十一月八日、鐺奉納奉告祭が斎行されました。
 佐原一郎氏(仙台市)が長年にわたり蒐集した鐺一〇三点、参考文献一〇一点、参考資料一点を、仙台藩刀装金工の研究に資するため奉納されました。
 祭典後、宮司より感謝状・記念品が贈呈されました。奉納された鐺は、博物館において「佐原コレクション」として管理し、その一部を新春特別展で展示します。

東神門竣工八十年

多くの参拝者を迎える東神門は、竣工八十年をむかえました。
 この門は、東京に本社を置く片倉チツカリン株式会社(現・片倉コープアグリ株式会社)の三代目社長であった片倉直人氏の敬神の発露により寄進されたものです。
 同社は、大正九年の創業で東京に本社を置き全国各地に支店・営業所をもち、配合飼

博物館だより

新春刀剣展開催
 博物館では、一月一日から二十九日まで恒例の新春特別展として「令和五年癸卯新春刀剣展」を開催いたします。
 鉄の美術工芸品として高く評価されている日本刀。本展示では、仙台藩にゆかりの作品を中心に日本刀の魅力を御紹介いたします。
 また、今回の展示では、令和四年に仙台市在住の佐原一郎氏より御奉納いただいた資料のうちから鐺(つば)を中

料を作製し農業界に寄与している著名な会社です。
 昭和十六年四月に来塩した片倉氏は佐藤重三郎宮司と面談し、鹽竈神社東神門造営費として金一万五千元を寄進することを快諾されました。
 同年六月二十五日に地鎮祭が斎行され、同年十月二十八日に竣工の運びとなりました。
 祭典終了後には、馬場上に設けた櫓から福餅・福銭が撒かれ奉祝行事が執り行われました。

心に展示いたします。
 作品の多くは、梅近(うめちか)や清近(きよちか)ら塩竈に居住したとされる鐺工を含む仙台藩で活躍した鐺工・甲冑師・刀工らによる作品で、歴史的にも貴重な資料です。
 鐺は日本刀の外装に付属する金物の一つで、柄を握る拳を守るなど実用的な機能を持つほか、装飾として様々な図柄が表わされています。武士の好んだ様々な意匠をお楽しみください。



○開館時間
 八時三十分～十七時(最終受付は十六時四十五分)
 ○入館料金
 大人三百円
 高校生以下無料

講社だより

十月八日より十日までの三日間、講社大祭が三年ぶりに齋行されました。

令和四年度継続講員表彰者 (敬称略)

◇九十年

菊田くら子

◇八十年

梅津 栄一・星 幸一
鈴木 完平・千葉 政治
相馬 文彦

◇七十年

飯田 平八・鈴木助五郎
大河原支部(六名)
八島 隆治・齋 忍
木村 幹男・高橋 清
中村 弘・堀籠 哲男

◇六十年

櫻井 進・大友みね子
遠藤 喜信
城南会(二名)
小林 孟彦
大河原支部(五名)
日下 正信・西山 茂人
阿部 文雄・庄子 充
森 美子

◇五十年

千葉 喜清・中山庄太郎
松崎 英彦・上野 庸悦
橋沼 好信・渡辺 義夫
笹谷 長喜・阿部 武雄
加藤 安男・半沢 祥一
渡辺 敏明・笹谷 清
太田 和雄・高橋 崇
政木 秀樹・鈴木 省吾
大槌支部(一名)
前川 武吉

◇四十年

長沼 昭吉・菅原 勇
東海林松雄・相原 誠一
小川 浩二・大山 庄蔵
加藤 幸子・佐藤 勝夫
高橋 弘平・玉田 正俊
千田 和弘・永浦 誠
大槌支部(一名)
倉澤 ミヤ
大河原支部(六名)
加藤かつよ・加藤 栄治
佐藤 節子・加茂 耕一
佐藤 満・武藤 茂

◇三十年

高梨 英行・高橋 利雄
阿部 慧美・小野 一夫
小島 文雄・加藤平八郎
小泉 博・古積千鶴子
村上 昌史・吉田 怜子

城南会(一名)

田中 キヨ

大河原支部(一名)
高橋 清治

大槌支部(二名)
山崎 福男

岩出山講(二名)
尾形 良次

◇二十年

榎柴崎屋・加藤 澄子
関根 敬子・阿部 薫
遠藤 一佳・小栗 雅仁
川野 憲昭・高橋 圭一
中津留弘美・原田 武
昌浦 哲也・三浦みか子
城南会(二名)
戸島 康貴・角田 桂子
岩出山講(二名)
菅原アツマ・阿部 豊美

◇十年

森永乳業(株)・伊藤 のぶ
栗生明日香・小石 護久
郷家 政枝・桜井 修子
佐藤 順子・鈴木 明美
鈴木 養弘・渡部 正春
大河原支部(二名)
佐々木伸夫・齋藤 新一
大槌支部(十三名)
佐久間了子・大下智恵子
伊藤 勝治・藤原 設子

藤原 栄子・小国 和男
長洞 幸男・藤村 伸
水野眞太郎・湊 洋夫
小国 孝子・佐藤 勤

竹内澄美子
岩出山講(二名)
大沼 信良・小野松佳孝

委嘱
城南会
世話人 清水 一臣

岩出山講
講長 佐々木裕子

洗心講
世話人 高木 徹

洗心講社祭

十月九日に齋行されました。本年は創立五十周年を迎え、記念の奉賛金が明石講長より宮司へ贈呈されました。

継続講員表彰者

◇三十年

渋谷洋三郎

◇十年

竹ヶ原 仁・竹ヶ原友子
小野寺勝夫・小野寺廣男
前田 洋子・高橋 連
明石 雄治・佐藤 則夫
長嶋 一伊・菊地 君男
三浦 智治・阿部 守吉

遠藤ふじ子・遠藤 雄也
遠藤 博希

塩竈千人講社祭

例年は六月に齋行されますが、新型コロナウイルスの為に延期となり十月三十日に齋行されました。

継続講員表彰

◇六十年

佐藤 清市・鈴木 勝夫

◇四十年

鈴木 一義・仲野 嘉藏
茂木 忠・鈴木 明広
横江 孝徳・伊藤 敏明

◇三十年

赤間 芳明・横瀬 昭子
佐藤 勝治・佐藤 正
福島 紀勝・鈴木 和夫
小林 勝衛・佐々木長一
赤間 松治・赤間 政一
伊丹 衛・伊丹 敏子
伊藤 満儀・佐藤 正芳
◇二十年
伏見 重雄・酒井 文雄
佐藤 公儀・竹内 美幸
高橋 功・熊谷 儀一
赤間真由美・綿 恵美子
◇十年
桜井 厚子・本城 元子
今野 佳子

大漁満足	海上安祈願	安産祈願	三月	二月	一月	祭事暦 (一月から三月まで)	国家安泰	五穀豊穰	家内安全
			二十三日	十五日	一日				
			帆馬塚慰霊祭	節分祭追儺式	歳旦祭	朔日			
			志波彦神社例祭	節分祭追儺式	御始饌	御釜神社月次祭			
				元祭	鏡開祭	鹽竈神社月次祭			
				祈年祭	成人祭	志波彦神社月次祭			
				天長祭	正月祭				

参拝記録

九月

五日 國學院大學指定実習Ⅱ受講者 三名
 十一日 洗心講世話人会 八名
 十四日 全国芽生会連合会 十名
 二十一日 一万人のお宮奉仕和合友の会 二十名

十月

五日 茶道裏千家淡交会宮城支部 四名
 七日 国際ロータリー第二五二〇地区
 天沼ガバナール他 九名
 十九日 東京都・池邊 五郎氏

十一月

十九日 北海道洞爺佐々木ファーム 十名
 三十日 しおがま蔵出し 新酒まつり 十五名

文芸欄

新聞の文字めらめらと焚火立つ
 建売りの小さき庭や花八ツ手
 返り花津波の記憶よびさます
 欠けゆくも満つるも蝕の冬の日
 小六月一駄だけの旅気分
 秋空へキヤチボールの兄妹
 爽やかやかつら並木のゴルフ場
 悠々と紅葉且つ散る長老湖
 牡蠣筏波に眠れる銀かもめ
 撫牛をなであぐ緋寒桜かな

大野 みよ子
 大友 セツノ
 上田 由美子
 今田 須美子
 菅原 和子
 齋藤 豊子
 鈴木 ゆう子
 佐藤 悦子
 今野 紀美子
 及川 源作

謹賀新年

令和五年 癸卯 元旦

志波彦神社
鹽竈神社

宮司 鍵三夫
 権宮司 野口次郎
 禰宜 大瀧博司
 権禰宜 近藤優
 小野道教
 永野雄大
 鈴木重和
 前川成文
 菅原慶太
 小栗雅仁
 藤澤瑞朗
 柏木岳史
 浅野満昭
 三品博隆
 菅原治彦
 栗生貴史
 菅野祐太
 高橋友紀
 菊地明日香
 狩野瑞季
 氏家華
 小林莉沙
 及川華夢
 郷家もも
 千葉琴羽
 石川一牙
 加藤美羽

赤毛兎

新年明けましておめでと
 うございます。
 今年の皆様のさらなるご
 活躍をお祈り申し上げます。
 (慶)



巫女 日野愛咲
 苑丁 大沼れい
 社務員 菅田楓
 高橋賢
 阿部裕一
 伊藤道則
 三浦馨
 伊藤晶子
 伊藤章子
 学芸員 茂木裕樹
 釜社守 笹木さやか
 嘱託 伊勢章子